HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	極東ソ領に於ける鮮農經營に就て
Author(s)	池田, 善長
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 9, 23-35
Issue Date	1941-04
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/10694
Type	bulletin (article)
File Information	9_p23-35.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

極東ソ領に於ける鮮農經營に就て

池田善長

目次

一、はしがき
二、極東ソ領に於ける朝鮮人の分布
三、朝鮮人農業の諸樣相
（一）栽培作物
（二）農業方式
（三）農業收益
四、結言

一、はしがき

極東ソ領に於ける農業の發展に關するソビエート政府の公表は他部門に於ける場合と同樣多少誇大せられた傾向ありと雖も今日我々が此の發展しつゝある傾向を無視して置くことは許されぬ。調査の可能なる限り之が實數値をあらゆる角度から推定し置かねばなるまい。特に極東經濟力の主要給源たる農業の重要性といふ觀點に於て又一方移民政策の現實的問題への解答資料の整備として農業の技術的條件並に其の經營條件に關する研究の成果が極めて重要なる問題として取上げられねばならぬ。特に對ソ關係が今日在るが如くなる限り現地調査は不可能

であることに依つて愈々之が推定調査の緊要を增すものである。

此處に極東ソ領内に於ける朝鮮人農業の問題を提出する所以は前記要請への一貢献としてであり、加ふるに同胞朝鮮人が既に極東ソ領内に於て相當の實績を收めつゝ農業しつゝある現實を知ることは日本農業の北進に對し何等かの暗示を與ふるに資するであらうことを豫想し度いからである。

本論に入る前に二・三主として資料に關して斷つておく必要がある。本稿に使用した資料は主としてソビエート側發行の新聞並に諸資料、滿鐵並に軍政當局の調査資料を基礎として居るが、一々其の出所を明かならしめなかつた。之は斯種資料が多く秘扱となつて居る關係上當然のことである。從つて記述にあたつては政策的な見解を極力避けることに努め公表事實の分析に主眼を置いた。又資料はソ聯側で最新年度の公表を避けつゝある現狀から致し方ない次第であるが、多少年次が古きに過ぐる部分もある。併し乍ら調査にあたつては調査年次の新舊に關せざる部面につき問題を採つた關係上此の點の不備は本稿の價値を左程傷つくるものではないと考へる。尙ほ調査分析にあたつては鮮農の農業的地位並に樣相を鮮明ならしむる手段としてソ聯農業者の夫れと對比する方法をとつて居る。

二、極東ソ領に於ける朝鮮人の分析

極東ソ領内には今日約八十種に達する諸人種が分布せられて居り、此の中にあつて朝鮮人は次表の如く可成り主要な部分を占めて居る。而して全ソビエート聯邦中に分布せられる朝鮮人人口は約一九〇、〇〇〇人に達し、之等は主として極東地方に居住して居る。（九〇・〇％以上と推定す）夫等朝鮮人の半數（八七、〇〇〇人）はソ聯の國籍を所有し或は共產黨員として或は赤軍に活躍するものもある。極東地方に於ても主として黑龍州以東の地に多く分布せられて居る。試みに極東ソ領内各地に於ける諸民族の分布狀況を％を以て示せば次の如くである。

（第一表）　極東ソ領内諸民族ノ分布狀況

民族別	人口（千人）	%	民族別	人口（千人）	%
大ロシア人	一、二五五・〇	六二・四	猶太人	七・六	〇・四
小ロシア人	三三五・二	一六・七	土人	六四・〇	三・四
白ロシア人	四一・四	二・二	其他	四一・四	二・二
朝鮮人	一六八・〇	八・九	計	一、八八二・四	100・0
支那人	七二・〇	三・八			

之等は朝鮮人の分布域に就て概觀するに、朝鮮人の極東ソ領への移住の開始は文獻に依れば一八六四年ウスリー地方へ移住したのにはじまり、大量に移住を見るに至つたのは一九一〇年以降、特にソビエート政權確立後とされて居る。其の移住方向或は移動流はウスリー江河谷及び下部アムール江並にウラジヲストーク市よりデカストリ灣に至る日本海沿岸地方を中心とし、最近はオホーツク地方・新カムチヤツカ地方へも進出し、遠くザバイカル地方へも移動して居る。最も之等の密度高き地區は其の地區全人口の九〇・〇%に達する村落さへ見受けられる。次に最も多く集中する地區に於ける朝鮮人の全人口に對する%の狀況を參考のため示さう。

ポシエトスキー區	九〇・〇%
スイフンスキー區	五〇・〇
スウチヤンスキー區	五一・一

多少統計が古いが一、九二三年に於ける朝鮮人の最も密集せる地域として沿海州南部に於ける朝鮮人農業者の居住狀況を表示する。

（第二表）　沿海州南部ニ於ケル鮮農居住狀況

村落別	種別	農家戸數	農業人口	地區內の鮮農戸數(%)
ポシエット	スカヤ	二、五五八	一五、一五六	九九・〇
アレクサンドロフ	スカヤ	二、六三三	一三、七六八	五八・〇
バラバシエフ	スカヤ	二、二七六	一三、二九七	八三・〇
シコート	フスカヤ	一、二七九	六、三三一	二四・〇
スーチャン	スカヤ	四四六	二、四四七	三二・〇
キエフ	スカヤ	三七六	二、二六九	三七・〇
スイフン	スカヤ	二、三四二	一一、八二三	四三・〇
ボクロー	フスカヤ	一、四六七	七、八三一	四二・〇
グロデコー	フスカヤ	一、三二二	五、八八〇	三八・〇
計		一四、五七八	七七、七〇三	四九・〇

概して朝鮮人は商工業より農業に多く從事し、都市居住者は合計しても一、〇〇〇人內外と推定せられ、前記九村落に於ける朝鮮人農業人口は十六萬に達する。

彼等の生業狀況を概觀するに專ら農業に從事し、他產業に進出する者極めて僅少であるが、彼等は支那人と反對に家族と共に移住し堅實なる生活を營む關係上其の發展も將來性あるものと考へられる。一般に水田經營を主たる生業として居るが、都市附近に密集して園藝を營み、或は森林地方にては狩獵を、沿海地方では漁業を、或は鑛山地方では勞働者として稼働して居る。要するに農業部面に於ては朝鮮人は水田經營の技能を有するに於て將來の發展性あると共に一方ソビエート聯邦農業政策の基調たる農業の集團化・機械化と米作經營との矛盾乘離といふ二重の性格を持つて居る點を留意して此の問題を採上げねばならぬ。

三、朝鮮人農業の諸樣相

右述べたる如き鮮農の分布狀況並に生業の樣式から最近彼等の營む農業に就て多少分析的な資料を採り上げて其の樣相を推知しよう。

(一) 栽培作物

極東ソ領に於ける重要農作物は小麥・ライ麥・燕麥・蕎麥・玉蜀黍・大豆・馬鈴薯・水稻等であるが、之等作物の作付狀況をソ聯農業者の夫れと對比すれば次表の如くなつて居る。即ち、一農家當作付面積（單位一デシヤーチン）の作物配置狀況を以て示せば

（第三表）　鮮農の栽培作物

鮮ソ別 / 作物別 / 作付面積	鮮農 面積	鮮農 %	ソ農 面積	ソ農 %
作付面積	一・五一	一〇〇・〇	二・九五	一〇〇・〇
小麥	〇・〇三	二・〇	一・〇三	三四・九
ライ麥	—	—	〇・二七	九・二
燕麥	〇・一一	七・三	〇・七七	二六・一
蕎麥	—	—	〇・二四	八・一
玉蜀黍	〇・二〇	一三・二	〇・〇九	三・一
大豆	〇・二四	一五・九	〇・〇七	二・四
パイザー及チユーミーザー	〇・五七	三七・七	〇・〇二	〇・七
馬鈴薯	〇・一〇	六・六	〇・二〇	六・八
大麻及亞麻	—	—	〇・〇四	一・四
水稻	〇・一三	八・六	—	—

前表に就き鮮ソ農業を栽培作物によつて對比するに、兩者間には極めて大なる差異を有する事を知る。即ちソ農にあつては小麥（三四・九％）、燕麥（二六・一％）、を主要作物として之にライ麥（九・二％）、蕎麥（八・一％）、等

の麥類及び馬鈴薯(六・八%)、を多く栽培するに對し。鮮農はパイザー及チユーミーザー(三七・七%)、大豆(一五・九%)、玉蜀黍(一三・二%)を主要作物とし之に水稻(八・六%)を相當に栽培して居る狀況にある。之は要するに兩者の生活慣習から來る作物の選擇結果であらうが、之を農業經濟的見地から見れば、作物の配分狀況は市場要素を考慮する限り鮮農の配分はソ農に比し今後大いに考究すべき問題を持つて居ると謂ふ可きであらう。即ち鮮農の主要作物は大豆を除き他は之を需要する市場を有して居らぬに對し、ソ農の主要作物たる麥類は極東ソ領内に極めて大なる需要を有し且つ今後益々增大する傾向を持つものである。要するに作物の狀況からみても鮮農は自家用農業といつた形をとつて居ることが推知される。唯水稻の栽培に相當の成果を擧げて居る點に留意すべきであらう。極東ソ領に於ける水稻に關する資料として參考のため二・三の數字を揭記して置く。先づ作付狀況であるが主として沿海州に分布せられ、極東地方作付面積の近況は左表の如くである。

	九八、〇〇〇ヘクタール
一九二六年	一三六、〇〇〇
一九二八年	一二〇、〇〇〇
一九三五年	

收穫高は一九三五年度に於て

	二七一瓲
アムール州	八一三
ビロビジヤン州	一、〇八四
ハバロフスク州	二四、六六一
ウスリー州	五、六九一
沿海州	三二、五二〇
計	

而して平均收量（ヘクタール當ツエントネル）は一九三四年度に一二三・八となつて居る。ソ聯の米作に關しては主として技術的方面の研究成果を農林省米穀局に於て「ソビエート聯邦に於ける米作の北進」と題して資料を公刊して居ることを附記して置く。

(二) 農業方式

農業經營の內容を以下農業組織の觀點から二・三拾ひ上げて檢討する。先づ勞働力と耕地面積の關係であるが、之を鮮ソ兩者を對比するに

（第四表）　一農家の勞力組成

鮮ソ農別＼種別	家族員數	勞力 (A)	耕地面積 (B)	A/B
鮮農	五・一〇人	二・二六人	一・六一デシヤーチン	〇・七一デシヤーチン
ソ農	五・一〇	二・〇六	四・七五	二・三〇

此の表に於て見られる特長は鮮農は一農家經營中の勞働力がソ農より大なるに拘らず、耕地面積が極めて小なる點、即ち一勞働力當耕地面積の小なる點であるが、此の事は今後其の意味する條件を究明すべき問題である。併し乍ら鮮農の農業經營方式に不合理なる勞力の消費が行はれて居るものや否やに關する解答に資すべき的確なる資料は今此處に見出すことは困難である。

次に播種地積と牧草地の割合を見るに次表の如くである。

（第五表）　一農家當播種地と牧草地の割合（デシャーチン）

鮮ソ農別＼種別	播種地(A)	牧草地(B)	A/B
鮮農	一・五一	〇・一〇	六・六
ソ農	二・九五	一・八〇	六四・四

鮮農の主穀農業たる性格を此の表が遺憾なく示して居る。之を裏付ける資料として農家一經營内に於ける家畜の割合を見るに次表の如く豫約される。

（第六表）　一農家當家畜飼養狀況（頭）

鮮ソ農別＼家畜別	馬	牡牛	牝牛	羊	豚	計
鮮農	〇・三〇	〇・二七	〇・三六	—	〇・九〇	一・八三
ソ農	一・四〇	〇・〇七	一・五〇	〇・三五	二・九〇	六・二二

即ちソ農一經營當家畜六・二二に對し鮮農一・八三となつて居る。而して農業用役畜として使役せらるゝものはソ農にあつては家畜數の略々二〇％と推定せらるゝに對し鮮農は五〇％に及ぶ。

次に鮮農の農業方法に就てみるに彼等の多くが朝鮮より移住する時多くは貧窮に基いて移動せるものである結果其の方式も所謂小農的であり從つて機械力の利用の如き部面に於ても極めて原始的な形を踏襲して居る。

(三)　農業收益

以上の如き農業の經營に於て其の收益は如何にあげられつゝあるや。先づ鮮・ソ農の一經營當農業收益の狀況

を表示すれば次の如くである。

（第七表）　一農家當農業收益の比較

鮮ソ農別 / 作物別 / 種別	ソ農 播種面積（デシヤーチン）	ソ農 收益（ルーブル）	鮮農 播種面積	鮮農 收益
小麦	一・〇三	九〇・〇二	〇・〇三	三・七二
ライ麦	〇・二七	二一・八八	—	—
燕麦	〇・七七	二九・六一	〇・一一	五・一一
蕎麦	〇・二四	六・六七	—	—
玉蜀黍	〇・〇九	五・五五	〇・二〇	一四・八九
大豆	〇・〇七	七・〇〇	〇・二四	二三・八六
チューミーザー	〇・〇二	一・五四	〇・五七	四三・八九
馬鈴薯	〇・二〇	一二・四〇	〇・一〇	六・二〇
大麻亜麻	〇・〇四	三・一二	—	—
米	—	—	〇・一三	二八・三五
合計	二・七三	一七五・七九	一・三八	一二六・〇二

前表から夫々一デシヤーチン當收益を算出するに

鮮　農　九一・三ルーブル

ソ　農　六四・四

で鮮農は土地に對しては極めて高き收益をあげて居るが、次表につき勞力に對する收益をみるに之と逆の狀況を示して居る。

（第八表）　一勞力當收益

鮮ソ別	一經營當勞力 (A)	收益 (B)	A/B
鮮農	二・二六 人	一二六・〇二 ルーブル	五五・七 ルーブル
ソ農	二・〇六	一七五・七九	八五・三

斯くて之等の資料より鮮農の經營に於て、特に勞力の配置に於き今後考究すべき課題が多いことを暗示せられる。

次に農業所得に乳肉・養蜂或は副業による所得を加算した年所得は次表の如くである。

（第九表）　鮮農・ソ農の年所得比較（ルーブル）

鮮ソ別＼所得別	農業所得	乳肉所得	養蜂所得	副業所得	計
鮮農	一二六	一四	—	一九	一五九
ソ農	一七六	一三七	一四	一二〇	四四七

かくて家族一人當年所得は

鮮　農　三一・一ルーブル

ソ　農　八七・六

相當の懸隔を持つて居る。

四、結　　言

極東ソ領に於ける農業の發展は其の自然地理的條件の制約嚴しきにも拘らず、近年極めて飛躍的な進境を示しつゝある事は、資料乏しき今日に於てすら充分推定し得る根據を有する。極東ソ領農業の持つ役割は此處に改めて述べる迄もなからう。斯くて最近ソビエート政府は其の有する農業科學を極地に迄進展せしめ所謂「農業の境界線」を征服しつゝある。ソ聯に於ける經濟地理學者にして "Land of the Soviet, 1939" の著者 エヌ・ミハイロフ N. Mikhaylov は其の著 "Soviet Geography, 1935" に次の如く述べて居る。

「極北、北氷洋岸には農業は存在しなかつた。ツンドラ、永久に氷結した濕地。其處には町も村もなかつた。併し最近五年間に極北は非常に變化をとげて居る。石炭・石油・燐灰石及び諸金屬が北氷洋に發見せられ、發電所が建設された。製罐工場及び木材コンバインが生れた。港灣が出來、航空路が開設され多くの科學研究所や無線電信設備が設けられ、大都市が濕地と石の土地の上に建設され新しい住民が定着して居る。

斯くて大量の食糧特にヴイタミン含有の植物性食物並に新鮮な牛乳を必要とした。之が極地農業の根本である。夫れ自らが食糧基地を有せぬことは極北の經濟的發達を妨げる。科學は之を救つた。

かくて極北は農業研究所の網で覆はれ、濕地の水は排除せられ、酸性土壤はアルカリで中和して施肥された。必要なバクテリヤ植物を植付けた。之は環境への投降ではない、大自然の改變である。年々世界の各地から來る種子が播かれ、變種がとり上げられ交配された。馬鈴薯の收量も相當であり、大麥・小麥が成熟し燕麥も伸びた。極北に今日はキヤベージ・人蔘・燕菁・大根・豌豆・胡瓜・南瓜が生育して居る。

農業研究所の援助はソフオーズを北氷洋岸に出現せしめ、コラ半島は住民十五萬の北極工業地方であるが、近く農產物の自給の域に達するであらう。

極北の播種面積は一九二六年から一九三三年迄に蔬菜と馬鈴薯は三十三倍に穀物は十倍に增加した、農業は境界を知らない。」

引用が多少長くなつたが此の記述は極めて注目すべきものである。多少の誇大はあらうが、既にソ聯は極東ソ領農業の科學的研究から一歩前進して極地農業の研究に到達しつあるといふ點に示唆を見出すべきである。

斯くて我々の場合極地農業はとも角としても極東ソ領内の農業、特に注目すべきは、沿海州・黑龍州一帶の農業であるが、之に關する技術的・經濟的諸研究は其の農業が可能なりや不可能なりやの問題から一歩前進し、如何に自然條件を克服して農業すべきやといふ點に今後の研究上の重點を置く可きである。既に前述する如く同胞によつて相當の實績を收めつゝあるに於て。

此處に於て本稿は極東ソ領内に於ける鮮農の經營條件を多少分析的に取上げ、右に關する一つの解答への資料として提起した次第である。以下前述の資料を要約して結論に導かう。

鮮農の極東ソ領内農業の性格を見出す可く本稿は(一)栽培作物、(二)農業方式、(三)農業收益といふ三つの觀點から乏しい資料を利用しつゝ述べたのであるが、之を要約すれば次の如くならう。

(一)　栽培作物の觀點から

其の種類・作付の狀況より判定し、市場關係を考慮せざる所謂自家用農業的な色彩强い傾向あること。

從つて農企業が小規模であり發展性がない。

(二)　農業方式の觀點から

イ、一勞力當耕作地積が小なること、換言すれば一單位面積への投下勞力が大なること。

從つて不合理な勞力消費が行はれ居る狀況を推定し得る。

ロ、家畜を飼育すること少き主穀農業なること。

從つて寒地農業の一般的組織の例外をなし、經營に不安定性あること。

ハ、機械力の利用其他經營內容が原始的にして小農的なこと

從つて勞力の集約的利用をなさゞるを得ざること。

(三)

農業收益の觀點から

イ、單位面積當收益は比較的大なるも單位勞力當收益は小なること。

從つて多量の勞力を要すること。

ロ、副業收益が殆んど計られず單に農業經營にのみ主たる收益を依存し居ること。

從つて年所得の小なるに加へ自然的條件に對し極めて變動多き農業收益の大小にのみ經營の結果を委ねる危險な農業經營をなして居ること。

要するに資料の示す處に從つて解釋する限り鮮農の經濟的並に經營的條件は極めて不合理に出來て居り、其の條件を克服すべき考案も今日の處未だ案出されて居らぬ。而して結局最も大なる問題は勞力配分の問題であらう。收益の割合に又土地の割合に勞力が多量に消費され過ぎる傾向にある。朝鮮に於てこそ斯樣な勞力利用の方法は或る意味に於て合理化され得樣が、極東ソ領の如き人口の稀少なる從つて勞力少く且つ土地廣大なる地力に於ては不合理な農業方法と稱すべきである。

併し乍らとも角鮮農が極東ソ領內にあつて農業經營を行ひつゝあるといふことは、其の經營內容が如何にあらうとも最も有力なる日本農業の北進を示すもので、將來此の經營が技術的にも經濟的にも實驗的に其の成果を判斷する重要なる資を提供するであらう。

(昭和十五年十月十日再度渡滿出發の日)